

湯川だより



第29号 2016/10/25

発行：御代田町 町民課

～安定したごみ処理の実現と新クリーンセンター整備に向けて～

●●新クリーンセンター整備事業の進捗状況●●

新クリーンセンター建設予定地である北パラダ周辺では、6月から始まった新クリーンセンター敷地造成工事が続いています。工事の進捗状況をお知らせします。

新クリーンセンター敷地造成工事

北パラダに接する県道沿いに、工事で発生する騒音や粉じんに対応するための仮囲いを設置しました。敷地内では雑木の伐採を終え、南側斜面にU字溝を設置する工事を行いました。

工事に伴って、建設残土が発生しています。残土の処分先につきまして、御代田町内においても検討しましたが、最適な場所の選定に至らず、現在のところ佐久市へ搬出しています。処分先の検討にあたり、関係地区の皆様には、大変なご協力等をいただきありがとうございました。

11月上旬より、軽井沢町の公共工事での残土使用が予定されています。ふるさと農道と県道借宿小諸線を残土運搬車両が通行することとなりますが、登校の時間帯を避けるなど、交通安全には配慮しますので、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。ご不明な点がございましたら、組合までお問い合わせください。



▲県道沿いの仮囲い



▲予定地南側斜面(U字溝設置)

環境影響評価「施工状況等報告書」を県に提出

佐久市・北佐久郡環境施設組合では、平成28年7月から9月までの環境影響評価「施工状況等報告書」を今月下旬に長野県環境部へ提出しました。これは、新クリーンセンター整備事業の実施状況や環境保全措置・事後調査の状況をまとめたもので、4半期ごとに提出することとされており、今回で6回目の提出となりました。今回実施した環境保全措置は、動植物に対するもので、次のとおりとなります。

成木を移植したヤエガワカンバは、南側の支障木が伐採され、日当たりが良好となりました。葉が茂り、順調に生育しています。同じく成木を移植したオニヒョウタンボクは、葉に少しカビが発生しましたが、殺菌剤を散布するほどではない状況なので、今後も経過を観察していきます。これらの対象木及び移植したギンランの周辺に、仮囲いを実施しました。

生息基盤の移植を試みたベニモンマダラ(蛾の一種)の移植先での生息確認を4回にわたって行いました。移植1年目の今年は、移植した幼虫の個体数に比べ、確認された成虫の個体数が少なめだったため、今後も引き続きベニモンマダラの生息基盤の保護を行っていきます。



▲ベニモンマダラ



▲ハチクマ (雄)

また、初夏に夏鳥として渡来するハチクマ(タカの種類)に関しては、6月工事開始前の古巣確認調査での営巣は確認されませんでした。工事開始後の定点観察調査において調査範囲周辺での複数の出現が確認されたことから、7月・8月に追加調査を実施しました。7月調査においても複数個体のハチクマが確認されましたが、調査範囲内での同一個体による同一地域への執着や繁殖行動は確認されませんでした。引き続き実施した8月の調査では、成鳥雄1個体が確認されましたが、餌運び等の繁殖に関わる行動は確認されませんでした。ハチクマは今期、調査範囲内では営巣・繁殖活動を行わなかったと考えられます。



▲営巣確認調査の様子

編集後記

御代田町から佐久市へ向かう小田井宿の先にあるこうげつはら皎月原で今年も「中秋の名月鑑賞会」が行われました。松に囲まれたこの場所には、古くからの伝説が残されています。中秋の名月の9月15日夕刻、御代田町からは渡辺副町長、佐久市からは柳田市長が出席し、両市町関係者が見守る中、神事が執り行われました。今回初めて訪れてみて、普段何気なく通り過ぎていた車通りの多い道路沿いに、こんなにも静かな場所が広がっていたことに正直驚き、それと同時に、この場所と伝説を地域の皆さんが大切に守ってきた想いを感じることができました。

神事に引き続き、恒例の「知恵団子まき」が始まりました。先程までの厳粛な雰囲気が一変、辺りは子ども達の賑やかな歓声に包まれました。柔らかくてかわいなお団子は、子ども達にも大人気でした。



知恵団子



▲知恵団子をまく渡辺副町長(左から二人目)

【発 行】	御代田町役場 町民課 環境衛生係 御代田町大字御代田 2464 番地 2 電話：0267-32-3114 (町民課直通)
【組合問合せ先】	佐久市・北佐久郡環境施設組合 事務局 佐久市中込 3056 番地 (佐久市役所内) 電話：0267-62-2916